

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会 第3回執行委員会

（ 日 時 令和5年2月15日（水）  
午後6時～  
場 所 大和コミュニティセンター ）

開 会

- 1 委員長あいさつ
- 2 報告  
施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）の提出について  
（令和5年2月3日）
- 3 議事  
協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～

閉 会

【経過】

- (1) 1月25日（水） 第2回執行委員会
- (2) 1月31日（火） 子どもワークショップ テーマ「目指す学園像」
- (3) 2月 1日（水） 第3回ワークショップ  
テーマ「協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～」
- (4) 2月 3日（金） 施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）  
を教育長に提出
- (5) 2月 9日（木） 第2回学校運営部会

【配付資料】

- 資料1 施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）  
抜粋...P 1
- 資料2 協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～.....P 2
- 資料3 第3回ワークショップのまとめ.....P 9
- 別 冊 「協働的な学びの確保 ～小学校の再編～」について（報告書案）

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会 執行委員会名簿（20名）

番号	氏名	区分	所属等	備考
1	槻館 憲靖	学校運営協議会	塩田小学校学校運営協議会会長	
2	國澤 宗蔵	学校運営協議会	三輪小学校学校運営協議会会長	
3	堅多 敦之	学校運営協議会	岩田小学校学校運営協議会会長	
4	大冨 哲也	学校運営協議会	束荷小学校学校運営協議会会長	
5	的井 勝巳	学校運営協議会	大和中学校学校運営協議会会長	副委員長
6	田中 道太郎	保護者	塩田小学校PTA会長	
7	大田 敏之	保護者	三輪小学校PTA会長	
8	井本 眞明	保護者	岩田小学校PTA会長	
9	藤井 伸浩	保護者	束荷小学校PTA会長	
10	網本 雅彦	保護者	大和中学校PTA会長	
11	吉田 哲朗	教職員	塩田小学校校長	
12	品川 和之	教職員	三輪小学校校長	
13	磯部 祥生	教職員	岩田小学校校長	
14	福田 康子	教職員	束荷小学校校長	
15	河本 政之	教職員	大和中学校校長	
16	來戸 歳文	地域	大和コミュニティ協議会会長	
17	弘田 之文	地域	束荷コミュニティ協議会会長	
18	林 徳人	地域	塩田コミュニティ協議会会長	
19	小澤 寿司	社会教育	地域学校協働活動推進員	
20	宮尾 智義	学識経験者	前やまと学園地域協育ネット会長	委員長

## 施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書） 抜粋

※第2回執行委員会（1月25日）の配付資料から変更した箇所に網掛けしています。

## 4 まとめ

■教育委員会から提案のあった3候補地について、いずれの候補地もいいところがある一方、学校を運営する上で、様々な懸念される事項・課題があった。

■候補地を選定するにあたっては、これらの課題等が解決できるか否かを含め、対応策を検討していく必要がある。

■とりわけ「安全・安心」は、子どもたちの学びを第一義に考えたとき、最も大事な事項であることから、これを踏まえ検討を進めていただきたい。

■また、学園の場所と並行し検討していく小学校の複式学級の解消については、学園の場所が決定した後の施設整備進捗にとらわれることなく、スピード感を持った検討及び対応をお願いしたい。

■本準備委員会で協議し、考察した内容を踏まえ、子どもたちの学びを第一義に、「夢と希望にあふれ 未来へ輝く『光っ子』の育成」の実現に向けた施設一体型小中一貫やまと学園を新設していただくよう、検討をお願いしたい。

## 5 補足資料

## (1) 協議経過

ア 令和4年12月14日 第1回執行委員会

教育委員会から「学園の場所」について、岩田小学校・大和中学校・大和総合運動公園を検討候補地とする提案を受ける。

イ 令和4年12月21日 第2回ワークショップ

「学園の場所」として大切にしたい視点や項目を検討し「選定基準」としてとりまとめ、3候補地のいいところを洗い出す。

ウ 令和5年1月11日 第1回学校運営部会

3候補地における学校運営上の懸念される事項や課題を協議する。

エ 令和5年1月25日 第2回執行委員会

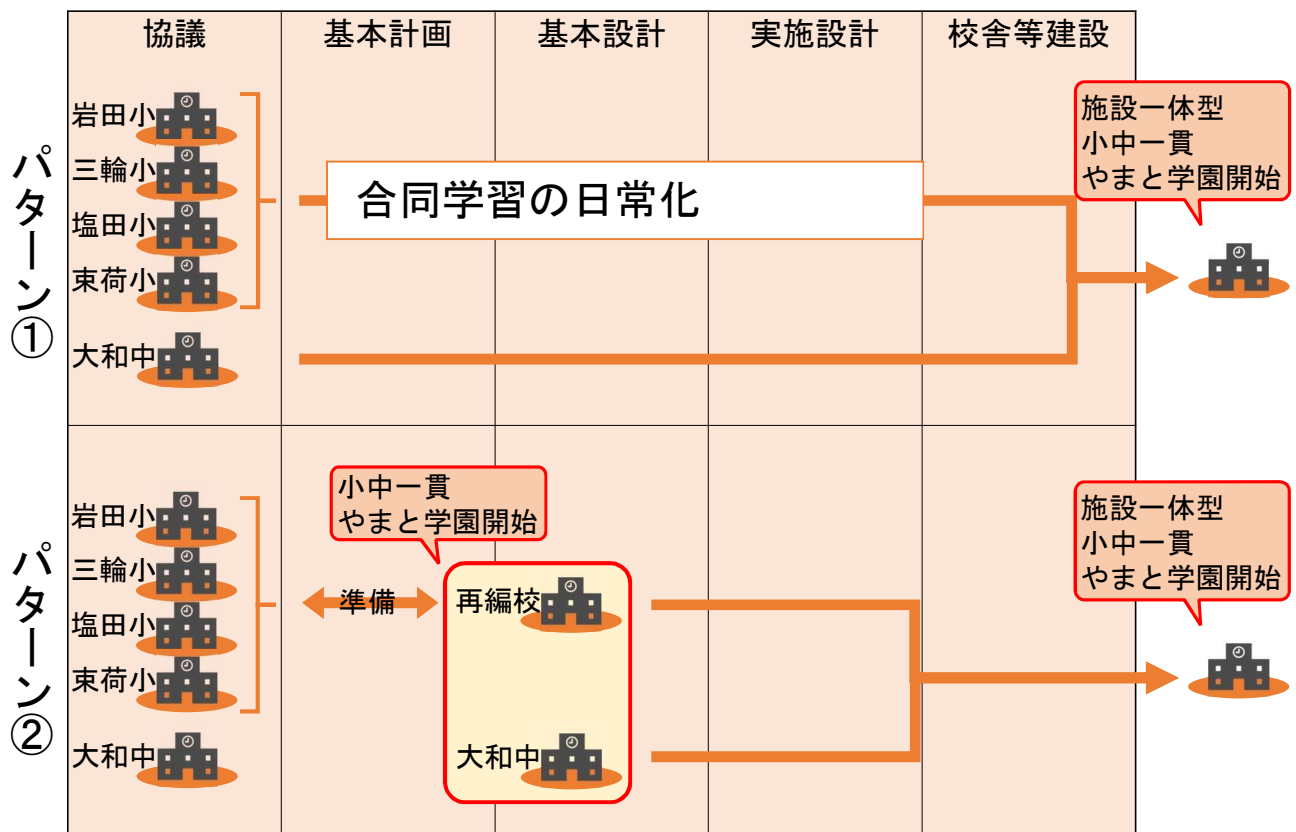
学校運営部会の報告を受け、準備委員会の協議結果を議決する。



# これまでの協議のふりかえり

	ワークショップ	部会	執行委員会
学園の場所	12/21 ■ 学園の場所として大切にしたいこと ⇒ 9つの選定基準 ■ 3候補地のいいところ	1/11 ■ 3候補地の懸念される事項・課題	1/25 ■ 部会のとりまとめ内容を協議⇒市に報告
協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～	2/1 ■ 再編の考え方や現在の取組を共有、意見交換	2/9 ■ WSの意見を整理し考察を深める	2/15 ■ 部会のとりまとめ内容を協議⇒市に報告 ※本日配布資料

## 1 小学校の再編について



## 2 ワークショップ簡易比較表

区分	パターン① 合同学習の日常化	パターン② 小学校先行再編
【学び】 ●協働的な学び	確保○	確保◎
【児童】 ●新たな生活への適応や学習環境の安定等への配慮	必要	
【教職員】 ●教職員数（現状に対して）	維持	減 ※新しい学校規模に応じた配置
【地域連携】 ●地域との連携・協働	これまで同様	新たな地域連携等検討
【組織】 ●PTA ●学校運営協議会	これまで同様 これまで同様	新たなメンバーで構成 新たなメンバーで構成

## 3 大和地域4小学校の児童・学級数

### 【大和地域4小学校の児童・学級数】

(単位：人、クラス)

学年	岩田小		三輪小		塩田小		束荷小		計
1年	20	(1)	7	(1)	1	(1)	4	(1)	32
2年	13	(1)	13	(1)	1	(1)	3	(1)	30
3年	11	(1)	18	(1)	3	(1)	2	(1)	34
4年	21	(1)	13	(1)	2	(1)	3	(1)	39
5年	25	(1)	18	(1)	6	(1)	2	(1)	51
6年	17	(1)	24	(1)	2	(1)	3	(1)	46
計	107	(6)	93	(6)	15	(3)	17	(3)	232

## 4 大和地域 4 地区の児童数

(単位：人、R4.3末)

年齢	岩田地区	三輪地区	塩田地区	東荷地区	計
5歳 (R5年度1年生)	13	13	4	4	34
4歳 (R6年度1年生)	18	15	0	1	34
3歳 (R7年度1年生)	19	10	1	2	32
2歳 (R8年度1年生)	21	8	4	1	34
1歳 (R9年度1年生)	16	7	2	8	33
0歳 (R10年度1年生)	8	5	2	0	15

### 施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会 第3回執行委員会

## 学校で行っている「合同学習」について



令和5年2月15日

# 少人数・複式指導



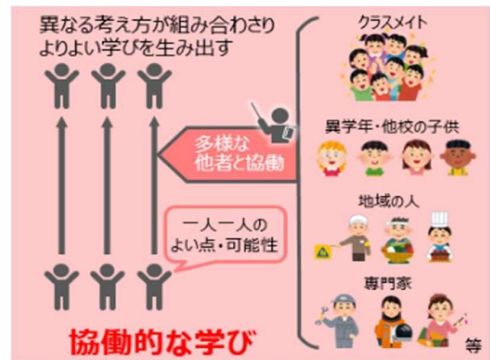
○きめ細かな個別指導ができる。



○学年を越えた学び合いができる。

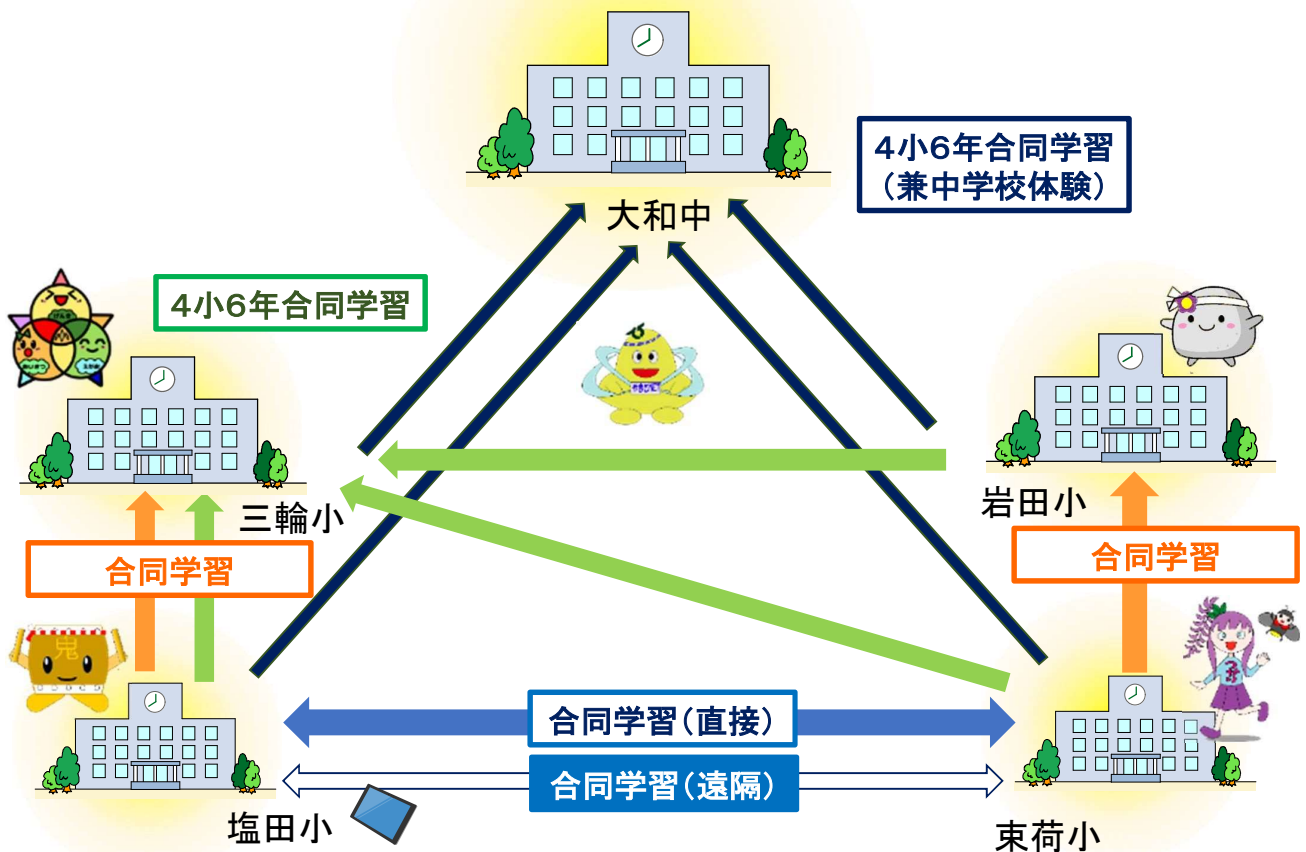


○自分たちで学習する力がつく。



△同学年での学び合いが難しい。

## 令和4年度のやまと学園 合同学習の取組





## ◆塩田小・東荷小の合同学習

日常的な交流をとおり、安心感の中で複数人での学習・生活を経験する。



・複式学級を解体して、  
同学年での単式授業の経験



・多人数でしか味わえない楽しさ  
や学びの深まりの経験



※遠隔合同学習で、  
対面での合同学習を補完

## ◆塩田小・東荷小の合同学習



1日合同学習(1校時から5・6校時まで)

## ◆塩田小・三輪小、東荷小・岩田小の合同学習

訪問校：多人数の中での学習・生活経験、人間関係の形成  
受入校：日頃と異なる人間関係の中での学習・生活による刺激

### 【塩田小・三輪小】



全校1日合同学習：1回  
（三輪小）  
5年合同学習：1回  
（塩田小）

### 【東荷小・岩田小】



全校1日合同学習：1回  
（岩田小）  
5・6年1日合同学習：2回  
（岩田小）

## ◆4小6年生の合同学習



中学校に向けた学習・生活の保障、人間関係の形成

### 【10月 三輪小にて】

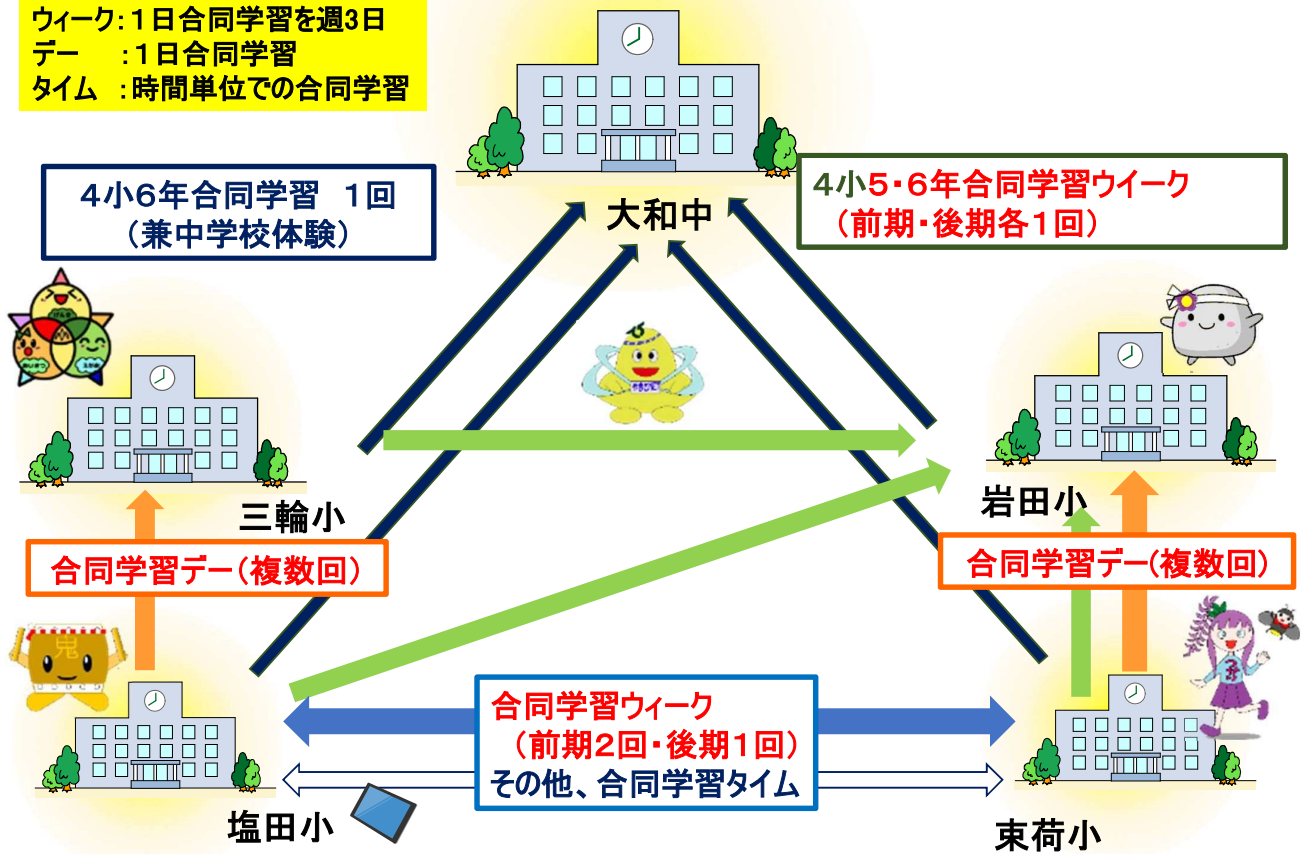


### 【1月 大和中にて ※中学校体験を兼ねて】



## 令和5年度のやまと学園 合同学習の取組

ウィーク: 1日合同学習を週3日  
 デー : 1日合同学習  
 タイム : 時間単位での合同学習



## 令和5年度のやまと学園 合同学習の取組

### 【円滑に進めるための課題】

- 各校の生活時程の調整
- 各校の指導計画の調整
- 交通手段、机・椅子の確保
- 教職員間の打ち合わせの時間の確保





## 第3回ワークショップ (R5. 2. 1) グループ発表 (まとめ)

	発表内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校同士がこんなに合同学習していることに驚いた。</li> <li>●合同学習のメリットが最初にたくさん出た。</li> <li>●4小が1小になったら、先生の数が減るのではないか。</li> <li>●今後に向けて、4小の状況をしっかり把握してほしい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の歴史はちゃんと伝わっていくのだろうか。このあたりは今、やまと学園として動き出しをしている。</li> <li>●一人ひとりの個性や資質をどう引き出していくか、が重要。</li> <li>●子どもを第一義に考えたとき、パターン②で小学校が先にくっついた方が、やりやすいのかな、というところで話が終わった。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩田・三輪は、交流が少なく、そもそも交流があることをご存じない。</li> <li>●4小学校を1つに再編するには、文化の違いをうまく水合わせしなければ。</li> <li>●教員の負担が大きいので、教育委員会のフォローをしっかりと。</li> <li>●4小がいきなり一緒になって、先生がボンと減ったら、あまりうまくいかないのではないか、というのが最終的な結論になった。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●合同学習を充実するには、環境が整っていないといけない。</li> <li>●一番は子どもたちが、毎日いろんな子と接することが、楽しい時間になるのではないか。</li> <li>●地域の方のかかわりも増えるし、文化を学べるチャンスも増える。</li> <li>●4小が1小になることが良いのではないか、という話になった。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少ない人数だと、どうしてもできない授業(体育)がある。</li> <li>●東荷神舞や石城太鼓など地域の伝統芸能が、4小から1小にしたとき、どうなっていくかが課題として出た。</li> <li>●願いとしては、早めに合同化して一緒に子どもたちが学べること。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●何よりも、もうすでに学級が1人の学校もある。1日も早く、多くの子どもたちと一緒に関わりながら授業を、という保護者からの願いがあった。</li> <li>●それを考えたら、やまと学園はすぐにでも開始した方が良いのではないか、という意見でまとまりつつあった。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●合同学習について、地域の課題は卒業生が出身校への思いが強いこと、児童の課題は「自分は〇〇小学校だから」という児童自身の壁をどうするか。</li> <li>●願いとしては、早めにパターン②に移行する方が良いのではないか。今複式のところは、早目に複式を解消することが大切ではないか。</li> </ul>

第3回ワークショップのまとめ 合同学習と4小再編の比較検討

	区分	合同学習	4小再編
メリット・よさ	学び	いろいろな先生の授業を体験できる 小小の交流が中学校体験に生きた 1日の合同学習は良い(もっと増やすべき) 時々「合同」で刺激がある いつもと違うメンバーで体育や音楽ができる 大きな行事を合同で開催(陸上記録会など)	複式学級を解消できる 学習の進捗が同じ 学び合いの充実 落ち着いて学習できる
		多様な見方・考え方を聞ける クラス内に適切な人数がいる 同学年で授業できる 人数が多ければできる授業がある(体育・ゲーム・合唱など)	
	児童	「昼休み」が一番心に残った(休み時間も交流できる) 合同学習で相手に配慮する気持ちが育つ 先生が多いので児童をフォローしやすい 気が楽 仲良くなるスピードが早い(小さい学校同士) 新たな発見、緊張感	スクールバスなら安全に通学できる 一体感がある 同学年の人数が多い方が違いを認め合える場がふえる 小学校で最年長を体験できる
		友達ができる・増える たくさん人がいると元気が出る 競争心の確保	
	教職員	教員が多い	教員の負担が減る
	地域連携		伝統文化や地域の行事に4小の子が関われる 地域の力を借りることができる
	その他	備品の数が多い	
デメリット・懸念・課題	学び	回数が限られている 教科の進度を合わせる 時程を合わせる 合同学習の課題の整理 イベント・行事が合同学習のメインになる(日常の学習が大切)	岩田小と三輪小を一緒にするメリットを示すことが必要
	児童	移動時間による授業時間への影響 直行直帰できると良い 小規模校は、縦のつながり(異学年)は強いが、横のつながり(同学年)は弱い お客さん感がある 慣れるまで時間がかかる 児童自身の所属意識(「自分は●●小学校なのに」という思い)	児童数に差があるので、少ない学校の児童への配慮が必要 徒歩通学できない子どもが増える スクールバスが必要になる 光っ子サポーターなどフォローが必要
	教職員	教員の負担が大きい 学習の指導はどちらの学校の先生が担当するのか 学校によって先生の考え方が違うので、教えるのが難しいのでは	教員数が減る
	地域連携	地域の歴史は引き継がれていくか	学校がなくなる地域がある 地域住民の理解を得る進め方
	組織		
	その他	合同学習できる環境があるか	スクールバスの手配が必要 卒業生の出身校への意識 学校ごとの文化を合わせる必要がある
質問	今の合同学習はどちらのパターンにつなげやすいのか 日常化のレベルや回数は 地域学習は選ぶか、別々か	地域との連携をどうするか 制服はどうなるのか 小学校統合 どの校がくっつくのか(1校か2校か) 学校はどこになるのか バス代は保護者負担か	

その他、意見等
現在の合同学習が予想以上だった・知らなかった 各地域の大事なことを絞る 4校の状況把握を 保護者の交流機会が減少している 今のままで良いのではないか 一貫校設立までの時間(メモリアルタイム)を子どもたちで活用できるように 複式解消・小学校の統合を早く  教育委員会のフォローは？ → 情報発信・SNS利用、 保護者にも明確にわかるように、 保護者の交流の機会  親同士の関係に偏りはあるか？ スポ少の影響があるのか？ → 子と親は別、ととらえている人が多いのではないか 親の接点がない、 交流の機会が減少しドライになっている